# 平成２５年度 愛知県がんセンター公開講座（第８回）のご案内

## 「肺がんについて学ぼう ～予防から治療まで～」

平成２６年２月２３日(日) 開催

< 講師からのメッセージ >

**「肺がんの疫学と予防」**

肺がんは、日本でがん死亡第一位のがんです。2008 年には、９万７千人が新たに肺がんにかかり、約７万人が肺がんで死亡しています。肺がんに罹ると治療が大変難しいため、肺がんに罹らないことがとても重要です。

肺がんの主要な原因は、「喫煙」です。喫煙がどのくらい肺がんに悪影響を及ぼしているのか、禁煙すれば悪影響はどの程度下がるのか、など、肺がんを予防するために今からでもできることを、分かりやすく説明したいと思います。

研究所 疫学・予防部　室長　伊藤　秀美

**「肺がんの診断 ～早期発見のために～」**

胸部レントゲン検診や胸部 CT 検診の有用性については、今回触れません。がん専門病院に紹介されてくる患者さんの画像を診察室でみて、肺癌か肺癌でないか質的判断する際、どのような点に注意して読影しているかを話したいと思います。将来的には、医師による画像診断がコンピューター診断に置き換わるかもしれませんが、私たちが診断精度を自ら高めるために実施していることを聞いて、「なるほど」と思っていただけるかも知れません。

中央病院 外来部　部長　堀尾　芳嗣

**肺がんの治療「肺がんの薬物療法」**

肺がんは、医学の進歩した今日でも、発見時にすでに進行していることが多い難治性のがんです。進行していた場合には、薬物療法によってできるだけ進行を抑えることが治療の目的となります。薬物療法と言えばいわゆる抗がん剤しかありませんでした。しかし、ここ 10 年の肺がん研究の進歩により、組織型や遺伝子のタイプによって治療を個別に選択し、より有効な治療薬を選ぶことができるようになってきました。また、免疫系に作用する治療薬の試験も始まっています。本講演では、できるだけ難しくならないように、最近の個別化治療の進歩についてお話したいと思います。

中央病院 呼吸器内科部　医長　清水　淳市

**肺がんの治療「放射線治療・ピンポイント照射（定位照射）」**

放射線治療は外科治療、抗がん剤治療と並んで「がん治療の３本柱」の１つですが、その特殊性から一般の方々への理解や治療自体の浸透が他の２者と比べて遅れています。放射線治療は切らずに治すことが最大の特徴と言えます。現在すでに日本は高齢化社会を急速に迎えています。必然的に癌患者さんの数は増加していきますし、また手術ができない患者さんも増えていくと予想されます。当日は放射線治療がどのようなものか、肺癌を中心にお話します。

中央病院 放射線治療部　医長　富田 夏夫

**肺がんの治療「外科治療」**

肺癌、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫、転移性肺腫瘍などの胸部悪性腫瘍を中心とした胸部疾患の外科手術治療を専門にしています。本日の機会が皆さまのお役に立ちましたら幸いです。

中央病院 呼吸器外科部　医長　坂倉　範昭